

令和6年度 小論文 (第二部 商経学科) 解答例

問1 (80点)

【採点のポイント】

- ・集中管理型システムと自律分散型システムについて資料を正確に読み取っていること。
- ・集中管理型システムと自律分散型システムについて論理的に説明していること。

【解答例】

集中管理型システムとは、特定の主体がすべての権限を持ち、他の複数の主体に指令を与えて従わせる仕組みである。このシステムでは権限のある主体が統一的な方策に基づいて各主体の役割を決めるので効率性が高い。しかし、指令を受ける主体が変わるたびに、権限のある主体が方策を考え直さなければならないため融通性に乏しい。また、権限のある主体が判断を誤った場合には、取り返しがつかないことになる可能性もある。さらに、権限のある主体が機能しなくなった場合には、システム全体が機能しなくなる危険性もある。すなわち、集中管理型システムは効率的ではあるが、その信頼性が低い。一方、自律分散型システムとは、各主体がある程度の自主性を持ち、互いに調整をしながら自らの責任において行動する仕組みである。このシステムでは各主体が自主的に判断して行動しているため効率性は低い。しかし、環境の変化や不測の事態が発生したとしても、その時々状況に応じて各主体が目標達成のために行動できる。すなわち、自律分散型システムは必ずしも効率的ではないが、その信頼性は高い。

(461字)

問2 (40点)

【採点のポイント】

- ・下線部のオープンのお考えについて適切に説明していること。
- ・インターネットにおけるオープンのお考えのメリットとデメリットについて論理的に説明していること。

【解答例】

オープンとは所与の公的ルールに従うことを条件に誰もが参加し、何にでも利用できることである。インターネットの場合では、「プロトコル」という通信のための決められた手順、ルールさえ知っていれば、参加する個々が互いを知らなくても、誰とでも通信でき、多様な応用が可能となるのがメリットである。一方、インターネット上で流通しているすべてのコンテンツの内容まで含めて、無限責任を取る主体の存在を期待できないことがデメリットである。

(209字)

問3 (80点)

【採点のポイント】

- ・資料1と資料2を参考にして論理的に述べていること。
- ・災害に強いまちづくりの取り組みについて自分の考えを具体的に述べていること。

【解答例】

2つの資料によれば、環境の変化や不測の事態に対して、特定の主体に権限と責任を集中させることで効率的な対応が可能となるが、一方で多様な主体に権限と責任を分散させることで柔軟な対応も可能となる。例えば、地震や台風、洪水、噴火などの自然災害は突如として発生し、住民の予測を超えた被害をもたらす場合もあるため、これら2つの仕組みのメリットを十分に活かすことで、災害に強いまちづくりを進めることができる。前者の特定の主体として、地方自治体は防災体制を整え、その計画に基づきながら、ハザードマップや避難行動マニュアルの作成、避難場所の指定、避難情報の発令などを適切に行う必要がある。また、地方自治体は地域内の関係機関や各種団体と連携し、河川等の公共施設の管理や消防・救助活動によって住民を保護し、被害を軽減化させる役割を担っている。一方、後者の多様な主体として、町内会や消防団、NPO、ボランティア団体、学校、事業所などは個々に防災対策や避難方法などを確認しながらも、互いに連携して柔軟な対応をすることも求められる。このため日常的にコミュニティづくりを推進することで、地域の防災力を強化させることが重要となる。また、自分自身が食料・日用品の備蓄や避難経路の確認を行うなど、住民一人一人が自分の命を自分で守る行動も必要である。このように自助、共助、公助の連携が地域防災機能を高め、被害の軽減化と被害からの回復力を向上させると考える。

(609字)